

「イギリス海外研修」報告③【研修を終えて】

- ①SGH 事業・海外交流支援事業： 姉妹校提携・交流及びオックスフォード大学訪問
②目的： ロンドン市ヘイドン校を訪問し、姉妹校提携及び現地の高校生と交流及び
オックスフォード大学を訪問し、大学生と交流
～コミュニケーション能力の育成を図るとともに、異国の歴史・文化及び習慣等を
学び、異文化理解を深め、グローバルな視野を身に付ける～
③期間： 平成27年10月6日(火)～10月12日(月)

イギリス研修を通して、生徒たちにはこんな成長が見られます！



【研修全般について】

■この研修は私の将来にとって、大きな財産になったと確信を持っていうことができます。ヨーロッパという大きな領域に一步踏み入れることは、世界の多様さを感じるための第一歩となりました。今回の研修では、身をもって学ぶことが山のようにありました。イギリスという異国の地へ出向き、日本とは違う国民性や世界観を知ることができ、高校生の私にとってこの上ない素晴らしい経験となりました。これからの日常生活で、ニュースで聞く国際問題や国内の問題など大きなことから、本や雑誌で知る小さなことまで、いろいろな見方を身につけたり、身につけた知識を使って違う見方でみたり、世界に目を向けて生活を送っていきたいと思います。

■僕はこのイギリス研修において、事前学習から今までとてもいい学習と経験ができたと思います。初めての外国への研修で世界の広さを感じました。研修を通して自分自身を見る目、周囲を見る目、日本を見る目、世界を見る目、政治を見る目といった今までと異なった幅広い視野を持てるようになりました。

■私はイギリス研修を通して自分の中の視野が本当に広がったと感じました。ロンドン市内で見たロンドンバスや大英博物館、タワーブリッジやバッキンガム宮殿など様々な場所は、写真で見ていた世界が目の前にあり夢が現実となって、とても感銘を受けました。おそらく「伝統を受け継ぐ」という精神があるために、ロンドンの市内の景観はこれほどまでに私たちに感動を与えるのだと思います。このような精神は日本でも関高校でも、もっと言えば私生活においても必要ではないかと感じました。私は、関高校の伝統、私自身の家族や友人との絆を大切に、どんどん自分から進んで学び、ロンドンの街並みのように荘厳な雰囲気を持った人間にはなりたいと感じました。

■僕の英語に対する捉え方が変わりました。「英語は、勉強だ。」これは今までの僕の捉え方です。しかし、実際にイギリスに行ってみて、英語は、「コミュニケーションを図るための1つの手段だ」これが、今の僕の捉え方です。僕は「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業で行うスモールトークに対しても、今までと全く違う捉え方をしています。今までよりも意味のある、そして最も重要な要素だと思っています。なぜなら、どんなに難しい単語を知っていても、どんなに複雑な文法がわかっても、それが自然と口から出てくることなどないからです。使う練習をしないと出てこないのです。だから、これからも毎回の授業を大切にして、積極的に英語を使っていきたいです。

■僕は英語に対する捉え方が変わりました。「英語は、勉強だ。」これは今までの僕の捉え方です。しかし、実際にイギリスに行ってみて、英語は、「コミュニケーションを図るための1つの手段だ」これが、今の僕の捉え方です。僕は「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業で行うスモールトークに対しても、今までと全く違う捉え方をしています。今までよりも意味のある、そして最も重要な要素だと思っています。なぜなら、どんなに難しい単語を知っていても、どんなに複雑な文法がわかっても、それが自然と口から出てくることなどないからです。使う練習をしないと出てこないのです。だから、これからも毎回の授業を大切にして、積極的に英語を使っていきたいです。



【ヘイドン校との交流について】

■1 番印象に残っている事は、イギリス研修のメインであったヘイドン校へ行ったことです。ヘイドン校はとても大きな校舎で生徒も多く、見たときは驚きました。ここで、ちゃんと英語でコミュニケーションを取れるかと不安でいっぱい私を、ヘイドン校の皆さんが明るく声をかけて迎えてくれた時は、とても嬉しかったです。ヘイドン校では、日本とは異なると思ったことがいくつかありました。まずは授業です。パートナーの生徒の授業に参加し、実際に授業を体験した時、生徒の積極性に驚きました。私が受けた授業は、「アルコールと飲酒について」だったのですが、先生の問いに対してどんどん質問したり答えたりしている姿を見ると、日本と異なる授業の様子に不思議な感じがしました。また、生徒が5人から6人のグループになって意見を言い合って内容を深め、最後にまとめるというように進んでいきましたが、これを実際に体験できて、良い経験になりました。最後の交流パーティーでは、書道を紹介したのですが、ヘイドン校の先生方やペアの子たちから、“Amazing!”とか“Great!”と言ってもらえたときには、日本の文化を伝えることができよかったと思いました。本当に有意義な1日となりました。

■この研修は1週間というとても短期間ではありましたが、これからの生活や考え方に大きな刺激を受けたものでした。最も心に残っているのは、ヘイドン校での同世代の学生さん

との交流やオックスフォードの学生さんや先生との交流です。1対1で会話する時、all Englishはとても緊張したし初めての経験でした。何か伝えよう！話そう！とする姿勢が大切だということ学びました。しかし、まだまだ足りない未熟な英語力と緊張とで文は成り立っていなかったり、単語がわからなかったりする事が何度もありました。それでも、ある時、「あ！言ってることわかる！」と感じた時や今まで習った文法を使って相手に伝える事も何度もありました。このときは本当に嬉しかったし英語、楽しい！と思うことができました。ここでは、なかなか流暢に英語を話す事はできませんでしたが、未熟でもパートナーの子に伝える事はできることが分かり、言語が違ってもお互いがつながる可能性をたくさん感じる事ができ、これからの大きな希望になりました。英語は自分の視野を広げるために勉強していると思うと、今まで以上に楽しく勉強できそうです。

■一番貴重な経験となったものはヘイドン校の訪問です。今まで外国人と話したことがなくてとても緊張しました。話していると、語彙の量がすごく多いことを痛感しました。でも自分から話しかけることによって自分の知ったテーマで話が弾むから自分から英語でも話を盛り上がらせることができました。すごく達成感を感じたし、自分の英語が通じたことで自分に自信を持ち、自分の英語の力を信じることができましたと思います。

【オックスフォード大学での研修交流について】

■オックスフォード大学の学生さんに質問をするとき、日本の選挙制度のことやイギリスの教育制度について質問することができました。質問に対して彼は「選挙権を持つのが20歳から18歳に引き下がる事は重要なこと。何をどうしたいか、自分はどう考えているかを示すことができるから」とまず言いました。「政策には政党によって個性があるから、新聞を読んだりラジオを聴いたり親に聞いたりして政治を理解することが政治を形成するチャンスになる」と続けて言いました。次に



私は「初めて投票をした時にどう思ったか？」と聞きました。彼は迷わず「刺激的だった」と言いました。しかも“really, very”と何度も言っていたので本当にそうだったと思います。その後、「だって自分の意志を示せたんだよ!!」と言いました。私はここでも衝撃を受けました。このような気持ちを持つのはそれだけ自分の国の政治に関心に向けているからだと思います。私も選挙権を持つということに対して、もっと前向きに考えなければならないと強く思っています。

■今回のイギリス研修では、本当に貴重な経験をさせていただきました。その中で私が一番学んだことは、オックスフォード大学の学生との話し合いの中でのことです。私たちの班はジャスティンさんという方と、選挙権や大学生活について話し合いました。ジャスティンさんは「選挙権を得るということは、自分や社会を見つめ直し、自分の意見を伝えるチャンスが訪れるということだ。」とおっしゃいました。私はそのように考えたことがなかったので、とても驚きました。でも、人任せにせず、自分の意見を常にもっているのはとてもかっこいいことだと思います。ジャスティンさんの話を聞いて、選挙権年齢を下げたことが生かせるかどうかは私たちにかかっているのだと改めて実感し、自分の意見をもつことの大切さを学びました。

■オックスフォードにも行くことができました。オックスフォード大学というのは街と大学が一体となっており、日本のようにここは東大、ここは京大という仕切りがないと感じました。歴史ある荘厳な街で学生がのびのびと学業に専念できる空気が満ちていました。世界でもトップクラスの大学で研修ができることの貴重さを改めて感じました。「勉強はやりたからするのであって、やりたくないのにすることは勉強ではない」とオックスフォード大学の学生さんが言っていました。私もそのように学ぶことを強く決意しました。

【今後生かしていきたいこと】



■この研修は僕に素晴らしい体験を与えてくれました。初めての海外で、班長で、リーダーで、不安やプレッシャーはありましたが、その分いい緊張感を持って臨めたことがこの研修の成功につながり、ヘイドン校との交流も最高の形でスタートできたんだと思います。今回の研修で学んだことを思い出としてしまってしまうのはもったいない話です。僕は今生徒会執行部の一人として関高をよりよい学校にするという使命に燃えています。ボランティアやイベントのひとつひとつに一生懸命取り組み、仲間と協力

して物事を達成することの喜びをみんなで分かち合えるような学校にしたいです。そしてゆくゆくは関高だけにとどまらず、日本、世界へと人の輪を広げたいです。この研修で自分の事ばかり考えていてもそれはちっぽけな事だと知りました。もっと周りに、世界に目を向けなければ！世界は広いのだから！

■私はこのイギリス研修に参加した30人の中の一員として、将来、日本や世界に貢献できる人間になりたいと思っています。この経験をきっかけに、今までも好きだった英語がさらに好きになったし、興味も持てたし、もっと勉強したいと思えるようになりました。だから、私は、英語を通して世界と日本をつなぎ、多文化共生を目指してグローバルな視野を広げていきたいです。将来の夢はまだ決まっていないけれど、私は、得意で好きな英語を生かして頑張っていきたいです。そして世界に求められるような人になりたいです。